

平成24年度

第2回 富山高等専門学校 運営諮問会議

会 議 録

平成25年2月20日（水）

平成24年度 第2回 富山高等専門学校 運営諮問会議

日 時：平成25年2月20日（水）午前10時

会 場：富山高等専門学校本郷キャンパス大会議室

【会議次第】

1. 開会挨拶
2. 出席者紹介
3. 議 事
 - (1) 平成25年度入学試験状況について
 - (2) 平成24年度進路状況について
 - (3) 富山高等専門学校 平成24年度 年度計画実施状況について
 - (4) その他
4. 閉会挨拶

【出席委員】

〔敬称略、順序不同〕

- 遠 藤 俊 郎（富山大学学長）
石 塚 勝（富山県立大学工学部部長）
木 下 晶（富山県教育委員会県立学校課課長）
高 田 勇（富山県中学校長会会長）
松 田 登（富山高等専門学校技術振興会会長）
松 坂 武 彦（社団法人全日本船舶職員協会前副会長、
株式会社ケイセブン専務取締役）
犬 島 伸一郎（富山商工会議所会頭）
正 橋 哲 治（立山科学グループ管理部人材開発グループグループ
マネージャー）
<代 理>
浜 屋 茂（株式会社ユニゾーン執行役員）
（梅 田 ひろ美 株式会社ユニゾーン代表取締役会長の代理）

【欠席委員】

- 黒 田 輝 夫（富山県中小企業団体中央会会長）
金 岡 純 二（公益財団法人富山第一銀行奨学財団理事長）
山 口 光 三（富山商船同窓会会長）

【富山高等専門学校出席者】

- 米 田 政 明（校長）
丁 子 哲 治（副校長）
成 瀬 喜 則（副校長）
本 江 哲 行（教務主事）（本郷）
遠 藤 真（教務主事）（射水）
川 淵 浩 之（学生主事）（本郷）
水 谷 淳之介（学生主事）（射水）
高 熊 哲 也（寮務主事）（本郷）
林 興 一（事務部長）
杉 森 伸 平（嘱託）
広 瀬 浩 一（総務課長）

中 島 鉄 行 (管理課長)
松 梨 英 輔 (学務課長)
藏 川 一 正 (総務課課長補佐)
柴 田 淳 (総務課課長補佐)
清 水 由美子 (総務課主査)
錦 織 掌 (総務課主査)

〔開会 午前 9時59分〕

1. 開会挨拶

【林事務部長】 ただいまから、平成24年度第2回富山高等専門学校運営諮問会議を開催いたします。

議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます事務部長の林です。どうかよろしくをお願いいたします。

初めに、開会に当たりまして、本校の米田校長からご挨拶申し上げます。

【米田校長】 おはようございます。

改めまして、校長の米田でございます。一言ご挨拶を申し上げます。

いつまでも寒いのですが、今日も大分冷えておりました。委員の皆様には、お寒い中、またお忙しい中、本校の運営諮問会議にご出席下さいまして、本当にありがとうございます。

12人の委員の方をお願いをしていますが、今日は9人のご出席で、私の記憶の中では一番たくさんご出席いただいているということです。年度末も近くて、本当にお忙しい中、ありがとうございました。

今年度、第2回目になりまして、1回目は昨年7月だったかと思いますが、第2期中期計画の4年目である平成24年度計画をお示しして、貴重なご意見、アドバイス等を頂戴しました。その計画をどう実施しているか、今年度はあと一月ちょっと残ってはいますけれども、その実施状況をご説明して、忌憚のないご意見、アドバイス等を頂戴できればと思っています。

高専は制度ができて50年になります。高度成長期の日本のものづくりを支える技術者育成ということでできた高等教育機関の一つですが、成功した学校種とされています。昨年秋に50周年の記念式典が東京でございました。これから先50年をどうするのか。グローバル化対応、国際化、要求される技術も高度なものになっています。それにどうこれから対処していくか。短期的に見ますと、今、第2期中期計画期間の4年目です。第3期が1年ちょっと後に始まります。その第3期中期計画にどういうものを持っていくかが今議論になっているところです。

このような状況の中での本日の運営諮問会議ですけれども、短い時間かとは思いますが、

委員の皆様には忌憚のないご意見、アドバイス等を頂戴できればと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 出席者紹介

【林事務部長】 本日まで出席いただいております委員の皆様方をご紹介します。

富山大学長 遠藤俊郎様。

富山県立大学工学部長 石塚 勝様。

富山県教育委員会教育参事県立学校課長 木下 晶様。

富山県中学校長会会長 高田 勇様。

富山高等専門学校技術振興会会長 松田 登様。

社団法人全日本船舶職員協会前副会長、株式会社ケイセブン専務取締役 松坂武彦様。

富山商工会議所会頭 犬島伸一郎様。

株式会社ユニゾーン代表取締役会長 梅田ひろ美様の代理で執行役員 浜屋 茂様。

立山科学グループ管理部人材開発グループグループマネージャー 正橋哲治様。

なお、本日は、富山県中小企業団体中央会会長 黒田輝夫様、公益財団法人富山第一銀行奨学財団理事長 金岡純二様、富山商船同窓会長 山口光三様はご都合によりご欠席です。

続きまして、本日同席しております本校の関係者を紹介させていただきます。

校長の米田です。

副校長の丁子教授です。

同じく副校長の成瀬教授です。

本郷キャンパス教務主事 本江教授です。

射水キャンパス教務主事 遠藤教授です。

本郷キャンパス学生主事 川淵教授です。

射水キャンパス学生主事 水谷教授です。

本郷キャンパス寮務主事 高熊教授です。

嘱託の杉森です。

総務課長の広瀬です。

管理課長の中島です。

学務課長の松梨です。

その他、総務課職員が同席していますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

引き続きまして、席上配付しています資料の確認をさせていただきます。

(資料確認——記事省略)

【林事務部長】 本日の予定ですが、この会議は12時までご協議いただく予定にしています。この後、1階の中会議室に移動し、昼食をとりながらご懇談いただきまして、13時に終了予定ですので、どうかよろしくお願い致します。

本日の議長につきましては、既にご選出いただいています遠藤富山大学長にお願いしたいと思います。

それでは遠藤先生、お願いします。

(遠藤議長 議長席へ移動)

3. 議 事

(1) 平成25年度入学試験状況について

(2) 平成24年度進路状況について

【遠藤議長】 おはようございます。富山大学長の遠藤です。議長を務めさせていただきます。ご協力のほど、よろしくお願いしたいと思います。

早速、議事に入らせていただきます。

最初に米田校長から、1番目の議題、平成25年度入学試験状況及び2番目の議題、24年度の進路状況についてご説明を願いたいと思います。よろしくお願い致します。

【米田校長】 それでは、お配りしています資料に沿って説明したいと思います。

まず、入り口と出口の関係のデータをお示ししてご意見を賜りたいということです。

資料1をご覧くださいと思います。こちらは入学志願者、入試状況です。

学校にとって志願者の数、入り口のデータ、それから、この後お示しますどこへどう就職なり進学なりしていくかという出口の状況。入り口と出口の状況が生命線であり、志願者に関してはこれが増えるように努力しています。

上の表を見ますと、平成22年度から入学定員が各キャンパス120、合わせて240。これは2つの4学科高専が統合して1つの富山高専になったということで、学科数が減ったことにより定員が40人ずつ減っています。そのときの志願者数が出ています。

24年度からは、それまで本郷キャンパスは専願制といいますか、学力入試は県立高校との掛け持ちができないシステムになっていました。射水はもともと併願制といってそれができるシステムをとっていましたが、平成24年度入試から本郷キャンパスも併願制にして、全体が併願制の入試システムに移行しています。

今年度入試、平成25年度4月に入ってくる新生を選抜する入試のデータが示してあります。

それをグラフで描いたものが、倍率の推移が上のグラフで、下が志願者数の推移です。平成24年度、本郷キャンパスの倍率はその前の年から見て上がっていますが、これは専願制を併願制に変えたことによって倍率が約2倍になったということです。

24年度、去年はたくさん志願者がいたわけですが、今年の25年度は昨年から見ると倍率も志願者数も少し減っています。減ってはいますけれども、人数的にはたくさんいます。高専機構全体で51高専ありますが、中期計画の中にあります1万8,500人の志願者を確保するという目標は昨年度まで達成されていません。しかし、本校は併願制にしてその達成にかなり寄与していると考えています。これが志願倍率と志願者数の推移のグラフです。

各学科別に見てどうなのかというのが裏のページです。

まず推薦による選抜があります。表の右の方に「(C)」と書いてあるところです。これは3年分のデータです。一番上が現在行っている、この4月に入ってくる学生の選抜の表、真ん中の24年度が昨年度、さらにその前の23年度の3年分です。推薦で合格しなかった生徒はほとんど学力選抜に回ります。推選選抜と学力選抜を合わせましてB+Cとなります。そのB+Cから推薦がだめで学力に回った人を引くと、実質の志願者になります。

ちょっと見づらくて恐縮ですけれども、左側の合計の男女計が、今年度は744人、昨年は大変多くて853人、その前は689人、これは本郷キャンパスがまだ専願制をとっていたときのデータです。

これが入試状況、入り口の関係のデータのご説明になります。

引き続き資料2をご覧くださいと思いますが、今度は出口の関係です。

この3月に卒業する本科の学生あるいは修了する専攻科の学生の進路状況を表とグラフで書いたものです。

卒業予定者数は296人、専攻科修了予定者数は51人、合わせて347人います。

まず本科を卒業する予定の学生諸君の進路ですけれども、「本科」と書いたグラフをご覧ください。大学進学は、3年編入学ということです。それから本校の専攻科に進学がオレ

ンジで、進学組がそれぞれ29%と14%います。専攻科に進学する学生は41名います。

就職組が、緑色の県外就職が26%、濃い紫の県内就職が25%、半々です。本校の特色として、県内に就職する率、「県内定着率」という言い方をしていますけれども、これが他の高専に比べて大変高くなっています。

これに対して専攻科を修了する予定の51人の進路内訳ですが、大学院に進学する者が23人、就職する者のうち県外が10人と県内が15人。ここでも県内に就職する方が県外就職よりも多くなっています。これが、この3月に卒業修了予定の学生諸君の進路内訳になります。

どんな会社に就職するのか、どんな大学に編入、進学するのか、その辺の詳しいデータを次のページ以降に載せています。

学科別で書いてありまして、各企業とのクロス点にある数字が人数です。ほとんどのところが1人ですけれども、中にはその学科から同じ会社に2人とか4人とか、複数の場合はその人数が書いてあります。

企業は、製造業から電気・ガス、情報通信、物流・運輸、技術サービス、官公庁、その他まで分類して記載しています。ご覧いただければと思います。

本郷キャンパスの卒業生たちは旧課程の学生です。旧工業高専の学科ですね。機械、電気、物質、環境材料です。射水キャンパスは旧商船高専の学科で、商船、電子制御、情報、国際流通です。

4 ページが専攻科修了予定者の就職内定先の表です。

5 ページは大学編入学先です。上の表が各大学に学科からそれぞれ何人編入していくか、下の表も専攻科を修了した者がどういう大学院に進学していくかです。具体的な学校名、大学名を上げたものもつけさせていただきました。またご覧いただければと思います。

雑駁な説明ですが、以上になります。

【遠藤議長】 ありがとうございます。

安定したデータだと思うのですが、この件に関してご質問等がございましたら1、2点お受けさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【高田委員】 今ほど校長先生からご説明がありました5ページの大学編入学等のところで、射水キャンパスに保育専門学院に進学している生徒が24年度1名おられますが、これは主にどういう理由からなのか。中学校時代の進路指導をもう少ししっかりしておけばこういうことが防げたのか。分かる範囲で結構ですので、そういったところを少しお話しし

ていただければと思います。

【遠藤教務主事】 射水キャンパスの教務主事をしています遠藤です。進路指導室ということで説明します。

国際の学生が保育専門学院、それから商船学科の学生が看護専門学校、ともに女子学生ですけれども、最終的には親も望んだ形で、県内でこういうところに行かせていただいたという話になった。背景は、大学進学云々ではなくて、県内企業の就職先を探している中で時間が切れてしまって、最終的にこの道を選びたいというのが1つと、もう1つが母親の意向がかなり強かった。母親がこういう職業をしている方で、それで看護学院に行って同じように看護師になりなさいと。そういう方たちというのは学業を全うするかというところでかなり揺れ動くのですけれども、親の条件で卒業は絶対にしなさいということで。

こういうの学生が1人か2人は必ず、どこの高専も相談を受けます。

【高田委員】 おられるわけですね。

【遠藤教務主事】 はい。不適合ではないのですけれども。

【高田委員】 不適合ということではないんですね。

【遠藤教務主事】 ないです。ですから、卒業はするのです。ただ、その次のステップとして、本校から見て一番適したルートではないところに行く学生はいます。

もっと言いますと、工業系の学科から経済学科に行くというのも各クラスに1人、2人必ずいて、そこをフォローしていく。我々としては学校を卒業し、親も承諾した上で次のステップにという形にしています。私は30年の教師生活ですが、これは多分なくならないと思います。そういう学生たちは必ず年に1人か2人います。

【高田委員】 分かりました。ありがとうございます。

【遠藤議長】 その点に関しては、医療系の私の言い方からしますと、実は他大学あるいは他校を卒業して、ある年齢になったときに、医療系の看護を含めてやりたいという希望を持って、改めて看護学科あるいは医学部に入学してくる学生はかなりの数います。ですから、こういう形も若者の職業、業種を選択するための一つの形だと思います。

入学の志願倍率は3倍を超えておられます。最近、特に大学だと、倍率が2倍を切るとその大学の教育の質が保てないなどの話題も出てきています。3倍という数字はやはりすばらしい数字と存じます。

(3) 富山高等専門学校 平成24年度 年度計画実施状況について

【遠藤議長】 では、次の議題に移らせていただきたいと思います。

3番目の話題、今回のメインの富山高等専門学校の24年度の計画実施状況につきまして、最初に米田先生から概要を説明いただいて、その後、それぞれ項目別にご説明をいただくことにしたいと思います。

最初に米田先生、よろしくお願いします。

【米田校長】 A3横長の資料3です。紙は大きいのですが字が細かいので、なかなか見にくいかと思いますが、ご容赦下さい。

この資料の作りですが、欄が4つございまして、一番左の欄が第2期中期計画（富山高等専門学校）、本校の第2期中期計画です。独立行政法人の中期計画期間は5年で、最初の1期は独法化した平成16年から5年間。今は平成21年から5年間の第2期の4年目になっています。

項目は、1番目が「教育に関する事項」、これは高等教育機関であることもあり、事項が「(1) 入学者の確保」から6番まであります。それから先のページになりますが、2番目が「研究に関する事項」、3番目が「社会との連携、国際交流等に関する事項」と続いています。

各事項に対して2つ目の欄が、24年度、今年度の本校の年度計画が書いてあります。その年度計画をどのように実施しているか、してきたかが3番目の一番幅の広い欄で、その左にある年度計画の番号と対応づける形で、各番号に対してこういうことを実施してきました。まだ一月ちょっとありますので途中のものもありますけれども、それが記載されています。

一番右の欄がその事項を主に担当する部署、どの事項も全校挙げて取り組むわけですが、来年度の25年度計画を担当する部署としても、書いてあります。

このような作りになっていまして、この後、順次、各事項ごとにご説明をしてみたいと思います。

以上です。

【遠藤議長】 それでは、教育のところからご説明いただき、委員の皆様方のご意見、コメントをいただきたいと存じます。

最初は教育の話題です。「(1) 入学者の確保」から「(6) 教育環境の整備・活用」までの6項目について担当の先生方からご説明いただき、その後、委員の先生方のご意見を

いただきたいと思ひます。

委員の先生方には、それぞれのパートのところで最初にご発言いただくことに関してご連絡が行っていると思ひますので、2分程度にまとめていただければと思ひています。

最初は「(1) 入学者の確保」について、米田先生からお願いします。

【米田校長】 「(1) 入学者の確保」について私から、5分ほどお時間をいただいて、どのような実施状況かを説明したいと思ひます。

左から2番目の列の今年度の年度計画の番号に対応づけて、真ん中の実施状況、大きなところが書いてあります。今ほど説明したとおりです。

まず志願者、先ほど志願者数、志願倍率のご説明をしましたが、学校にとって一番大事なことです。その志願者対策、つまり志願者増を狙う、ということで、まず①-①ですが、中学校訪問が基本になりまして、年2回これを行っています。1回目は6月初旬から7月、2回目は10月末から12月中旬ぐらい。両キャンパスで1つの学校になっていますので、両キャンパスの教員がペアになって協力しながら訪問に当たり、学校の説明をしていくということです。

本校の志願者対策室と広報戦略室が中心になって、いろいろなPR用の資料、学校要覧、カレッジガイド、その他資料を持って各中学校を回ることにしています。これが志願者、入学者確保の基本と考えています。

2番目の①-②は、Webサイトを充実する。各種オープンキャンパス、公開講座、進学個別相談会などの情報もWebサイトに小まめに上げていくということです。

①-③になりますと、本校独自のPRももちろんしているわけですがけれども、例えば富山、石川、福井に新潟長岡と京都舞鶴を加えた中部日本海高専というくくりも1つ持っていて、その共同PRサイトに本校も他の高専と連携してPRをする。「中部日本海5高専共同PRサイト」と言っていますが、そのようなサイトも利用していると。

①-④ですがけれども、ニュースリリースなど積極的にマスコミを通じて本校の活動などをPRするようにしています。小水力発電の開発、国際交流、公開講座等、多岐にわたって活動、行動していますけれども、それらをPRするという目的でニュースリリースをしています。

これが「入学者の確保」の1番です。

以下、次の枠は入学説明会、学校見学会、公開講座、出前授業などの事業が基本になりますが、それをどれだけやったかということが細かに書いてあります。

その中の②-③ですけれども、本校は学科構成から言っても女子学生が比較的多い高専になっています。さらに、女子学生が比較的少ない学科にあっても、これからはぜひ女子学生に入学してほしいことから、「目指せ女性技術者」ということで、ホームページにも記載して女子中学生を対象に高専の魅力をPRしています。後で副校長から説明があるかと思えます。高専機構全体が男女共同参画推進に力を入れています。51高専のうち5高専を男女共同参画推進モデル校に指定しているのですが、本校はそのモデル校になっています。ということで、女子学生の増加策あるいは女性教員の環境、充実等にも力を入れています。

それに関連して、高専女子フォーラムのようなものも開催されるわけですが、そこに積極的に参加をしていくということが書いてあります。

次、3番目の枠にまいりますと、種々のパンフレット類、先ほども一部ご紹介しました。学校要覧以下のものです。これらについては志願者対策の基本になりますので、リニューアル等をしています。

その枠の③-③ですけれども、学校を紹介する動画コンテンツを今作成中です。新しい高専になって、新課程の第1期生が現在3年生で、この4月から4年生に上がります。その彼らあるいは彼女たちを素材にした動画を作りまして、それを学校紹介にシナリオ化して使うという作業をしています。

その次の4番目の枠については紹介を省かせていただきまして、5番目の枠に移りたいと思います。

年度計画としては中期計画の4年目ということで、それまでやってきたことの継続が多いわけですけれども、新規に取り組むものも1つ、2つございます。この中で統一入試、統一というのは併願制に統一するということですが、これの2年目ということで、きめ細かなPRをさらに行ったら。それでも1回目に比べて少し志願者が減ったという事実はあります。

その枠の最後のところですが、出口の関係、キャリア教育の観点ですね。先ほど遠藤教務主事からも話がありました進路指導室のメンバーに、4年、5年の学級担任、専攻科の副専攻科長、学科長等で委員を構成して、充実した進路指導ができるようにやっていると。定期的に進学、就職、内定情報等のデータを確認して学生指導をしているということが記載してあります。

ちょっとオーバーしたかもしれませんが、以上、「入学者の確保」という観点からの実施状況を説明させていただきました。

【遠藤議長】 引き続きまして、成瀬先生、2番目の項目をお願いします。

【成瀬副校長】 「(2) 教育課程の編成等」の1番目の枠ですが、新課程、新カリに入りまして、現在、3年生が一番上の学年です。その中で、2キャンパス統一あるいは新旧の問題で、教務指導、学生指導上の制度をもう一度きちんと再編、統一しないといけないということで、教務関係の申し合わせ集という形で統一を図っています。

特にグローバルという観点で英語教育を重視するというので、もともと本校にはネイティブの教員がいますが、さらに外部からネイティブの先生を呼んだり、英語教育の充実を図っていることを1番目の枠に書かせていただいています。

2番目の枠ですが、今の新課程の学生が卒業して今度、例えば専攻科に入るところで、新学科のための専攻科を考える時期に来ています。特色のある専攻科をどう作るか現在議論していきまして、近々答えを出していかないといけないところが2つ目の枠です。

次、めくっていただきまして3番目ですが、いろいろな科目において学力の充実を図るという観点で、幾つか試みがなされています。

③-①ですが、機構全体として学習到達度試験を毎年行っています。数学、物理につきまして、そういう試験を受験させまして、分析をして、今後の改善を図っていくことを毎年やっています。

③-②ですけれども、これは今年度からスタートしていますが、昨今、特に英語力ということで言いますと、TOEICにどう対応するかということで、今年度からTOEICの対策講座を2キャンパス同時に立ち上げています。基本的には放課後をベースにTOEIC指導を行っています。学科によって若干の違いはありますが、これによりまして、ある学科の場合は平均が50点ぐらい上がるという現象も見られています。

④、2ページ2つ目の枠ですけれども、我々のFDという立場で教員相互の授業参観を継続して行っています。前期1回、後期1回、他学科の先生も授業を参観していろいろ自分たちの参考にするということで、学科の違いによって大分雰囲気が違うという声も聞いていまして、非常にいい刺激になっているのではないかなと思っています。

2ページ3つ目の枠ですが、スポーツ、ロボコン等々です。高専の場合は、高校総体、高専独自の大会がございます。そこでいろいろ頑張って成績を修めています。女子学生の優勝であったり英語プレゼンの出場であったり、昨今は特に女子の活躍が目立っている感じがします。

それと同時に、今、4学科が旧の学科、新は3学科ずつということで、学生数が単純に減っていることも影響しまして、クラブ活動の活性化が課題になっています。それぞれのキャンパスで成立しない可能性もありますので、そこは土曜日あたりにキャンパス間にシャトルバスを出しまして、合同でクラブ活動ができるようにという工夫もしているところ
です。

以上です。

【遠藤議長】 ありがとうございます。

次の「優れた教員の確保」について、米田先生、お願いします。

【米田校長】 「(3) 優れた教員の確保」について私からご説明します。

まず最初の枠ですが、入り口、出口、学生の数、率が学校にとっては極めて大事ですがけれども、それ以上にどういう教員がいるかが極めて大事ということで、教員を採用するときは公募制を原則にしています。専門学科の教員の場合には、博士の学位を有する人あるいはそれと同等の資格を有する人を採用することを原則にして人事を行っています。

多様な背景を持つ教員組織にすることが目的にうたわれています。そのこともありまして、内地留学や在外研修、あるいは長岡と豊橋の両技科大との人事交流を積極的に進めています。今年度も長岡技科大に1人、新潟大学に1人、ハワイ大学に1人派遣しています。

高専の中では教員の人数の多い高専になってはいますが、そのスケールメリットを生かした人事、キャンパスごとで固定した人数ではなくて、そのときのパフォーマンスを上げるために、事情を考慮して教員定員を活用することも心がけています。

2つ目の枠ですけれども、長岡技科大、豊橋技科大とカリキュラム連携をしているところがありまして、長岡技科大がアドバンストコースと言っているものに本校は協力しています。これは、長岡技科大に卒業後3年次編入する学生の授業科目を先導的に行って、進学した後で認めてもらう制度です。

その次の枠ですけれども、先ほどの繰り返しになりますが、博士の学位取得者の率を上げる。一般教養科等にあっては、修士の学位を持っている先生の率を上げる。そのために教員の内地留学や在外研修など、そのほかに、3番目の枠の②の後段ですけれども、新たに教員の短期研修制度を創設したこと。10年や20年といった節目の年数を迎えた先生方には、充電の短期研修制度を設けたということで、これは来年度、この4月から実施することにしてはいます。短期サバティカル制度と言いかえると少し分かりやすいかなと思いますが、そのような制度を作っています。

4番目の枠ですけれども、先ほど「後で説明があります」と言いましたけれども、本校は男女共同参画推進事業のモデル校に指定されているということで、「女性スマイル・アップ推進委員会」という委員会を立ち上げ、女性教員の環境整備のための活動等を開始しています。設備的にも、女子更衣室に化粧台を設置するなど、女性教員の環境整備に努めています。

3/8ページ目の最初の枠ですけれども、成瀬先生からもありましたFD委員会で研修をして教員の質を向上させることに努めています。

また、富山高専独自の教職員表彰制度を設けまして、優れた業績の教員あるいは教育方法等で優れた教員に表彰する。あるいは、職員もそれぞれの持ち場で仕事をされているわけですけれども、その取組みが優れていた場合にこれを表彰するという表彰制度を設けて、これも1つのインセンティブになるのではないかと考えています。

次の6番目の枠になります。これは教員会議ですけれども、全教員の集まる会議が年に1回ありまして、そこで、1つ前の枠で今説明をさせていただいた教職員表彰で表彰を受けた者を顕彰しています。また、表彰を受けた先生方には、FD研修の一環として、一般の先生方に対して自分の講義のポイントを講演して、ノウハウの共有を図ることもやっています。

7番目の枠ですけれども、これは内地研修あるいは在外研修のときに、主に国際会議の参加促進をするために、旅費や参加費の支援も一部行っています。

また、機構本部が国際学会を主催していますISTSへの積極的な参加を促すために、これの支援もしています。今年度はタイで開催されたわけですけれども、3件の発表を本校から行っています。

以上です。

【遠藤議長】 ありがとうございます。

4番目の「教育の質の向上及び改善のためのシステム」につきまして、引き続き成瀬先生、お願いします。

【成瀬副校長】 (4)です。最初の枠ですが、教育の質の向上ということで、今現在、機構が中心になって、高専全体の中でどういう内容を学習すればいいのかということを中心にして、モデルコアカリキュラムというものを作成しています。高専の本科の教育の中で、最低限、ミニマムエッセンスをどうするかを中心にしたものですが、そういうものをベースにして、本校のカリキュラムをどのように改善していくかということについての検

討をしています。

1つ置きまして③ですが、中部日本海高専という枠組みがございます。通常、高専の場合は、ブロックでいきますと東海北陸地区ブロックとなりますが、中部日本海というくくりで、さらに北陸プラス長岡、舞鶴を入れていろいろ交流をしているところです。

特に国際交流という観点で、まずはタイのキングモンクット工科大学の学生、韓国のキョンヒ大学、シンガポールのポリテクニクの学生を短期で受け入れることを共同で行っています。

グローバルな観点で、学生を対象にミニ国際会議なるものを開催しています。外国からネイティブのプロフェッサーを招聘しまして、英語で発表した内容についてコメントをもらうといったことを毎年行っておりまして、これも複数の高専とテレビ会議を結んで行う形で進めています。

本校では幾つかプロジェクトが動いています。1つはロードマッププロジェクトといたしまして、基本的には海外インターンシップ等の経験をさせながらグローバル力を身につけるプロジェクト。それから、本校を含めて商船高専が5つございますが、商船学科の学生がグローバル力を身につけること。そして、海外で活躍できる人材を輩出するという目的で、「ALL SHOUSEN学び改善プロジェクト」、そして新しく大学間連携のプロジェクトとしまして「海事人材育成プロジェクト」がスタートしていますが、これにつきまして目的に従って推進しているところです。

1つ置きまして、⑤大学評価・学位授与機構による認証評価というのがありまして、そのために、まずは自己点検をきちんとやろうということで、自己点検評価委員会を立ち上げていまして、そのもとで評価チェック項目シートを作成しまして、これに従って自己評価、改善、さらにもう一度評価というPDCAを回すような活動を行っています。

次の⑥インターンシップの取組みというところです。インターンシップは通常2種類ございまして、国内のインターンシップを中心に、4年生の段階で企業インターンシップを行うのと、専攻科の段階で海外インターンシップを行うという形があります。

その中で、本校にはシニアフェローという制度がありまして、企業の方々にシニアフェローになっていただいて、本校の教育プログラムを支援していただくという形で進めているところです。

⑥-②に書いてありますが、今年度から立山科学様のご協力を得まして、マレーシアにあります立山オートマシンで専攻科の学生を受け入れていただき、2週間のインターンシ

ップを実施させていただいたところです。今後も引き続きお願いしたいと思っています。

次、めくっていただきまして4/8ページです。先ほど言いましたシニアフェローですが、現在33名のシニアフェローに活動していただいています。今年度から国際交流活動にもご協力いただける外国人という形で、初めて外国人の方にもシニアフェローになっていただき、本校の教育のサポート、支援、PRというところでご活躍いただいています。

⑧ですが、ご存じのように、高専は技科大との連携が大変強うございます。技科大と高専の共同で事業を作り上げていくということで、アドバンストコースというものを作っています。その一つとして、本校で、英語プレゼンを中心に英語力を身につける、英語論文を書ける、英語でプレゼンテーションができる、そういうものを共同で事業開発しています。今後も長岡技科大との連携が進んでいくものと思われま。

以上です。

【遠藤議長】 ありがとうございます。

引き続きまして、「(5) 学生支援・生活支援等」について丁子先生からお願いします。

【丁子副校長】 「(5) 学生支援・生活支援等」のまず①ですが、ここでは特に学生のメンタルな部分の支援ということでメンタルヘルス、高専機構でもKOSEN健康相談室といったカウンセリングサービスを設けていますけれども、各キャンパスともカウンセリング、学生相談室を充実させてサポートをしています。

また、以前からいたのだと思いますけれども、昨今、発達障害の学生が少し目立ってきていますので、特にサポートが必要な学生に対しては支援体制をとるといった制度整備をしています。

学生の意見を率直に聞こうということで、校長以下主事が、本科の学生、専攻科の学生と意見交換をしながら学生の要望を聞くということも年に1、2回ほど実施しています。

②ですけれども、ここの学生支援というところでは、特に図書館です。今までの紙媒体だけの図書ばかりではなくて、デジタル情報といいますかインターネットを通じたもの、あるいはデジタルのいろんな情報も含めて図書館といった考え方をしまして、今年度、射水キャンパスで図書館の改修を行いました。実質は「図書館情報センター」という名称になっていますけれども、改修がほぼ終わったところかと思えます。

本郷キャンパスの図書館は来年度以降ということで概算要求をしていたのですが、昨今の補正予算の絡みで、前倒しということで25年度改修されるということで、両キャンパスの図書館が融合して、お互い1+1以上の機能を発揮するような図書館の体制を

とろうと今計画中です。本郷キャンパスの改修については、ここに記載してありますように
つい最近の情報です。

寮も夏休みが大学と同じように8月、9月となったものですから、夏季期間中は基本的に
閉寮ですので、9月の残暑厳しいとき一応寮は閉寮になっているということで、エアコン
の必要性はそれほどないと言いながらも、7月下旬から8月の頭の暑いときは大変です
ので、エアコンの整備等、学生が快適に勉学に励んでもらえるような措置も順次進めてい
ます。

③の授業料の免除、各種奨学金の方は、従来どおり予算の範囲内で十分に手当するよう
に配慮しています。

④は、特にキャリア教育ということで、スムーズに学生自身が進路を決めてとといった、
いろんな授業をやっています。インターンシップは従来からやっていますが、夏季期間中
にやっているものをさらに促進する。それに加えて、両キャンパスの4年生や専攻科の1
年生を一堂に集め、技術振興会の会員企業にご協力いただき、企業研究会ということで、
じかに会社から学生がいろいろと情報を得るような企画もやりました。

就職セミナーや就職ガイダンスも適時やっけていまして、進路の学生が決めるのに支援し
ているところです。

以上です。

【遠藤議長】 ありがとうございます。

引き続きまして、「教育環境の整備・活用」をお願いします。

【丁子副校長】 引き続き、(6)「教育環境の整備・活用」を説明させていただきます。

特に教育研究関係の施設や設備の整備です。マスタープランを随時作りまして、向こう
2、3年ぐらいの計画を準備しています。

②も同様に、学校のいろんな施設、営繕等も順次しているところですが、それも、
補正予算の絡みもありまして、前倒し以上の向こう10年か20年分の整備が行えるような状
況になってきています。詳細についてはまた来年度に報告します。現時点ではまだ詳しく
決定していませんので、また参議院で審議しているところですので、それ以上申し上げる
ことはできないと思いますが、そういう状況が進んでいます。

②にちょっと書いてありますけれども、エコアクション21に取り組んでいます。これま
で本郷キャンパスで認証いただいていたわけですが、本年度からは射水キャンパス
も含めた一事業所としての認証をいただきました。

その他、健康管理、安全管理等に関する③ですけれども、独立行政法人になってからは一企業と同じような扱いを受けることから、安全衛生委員会というものを設置しまして、教職員の安全、意識の向上といった環境を整えるようなことに取り組んでいます。

特に今ちょうどインフルエンザが流行しているときですけれども、教職員が感染源になってはいけないということで、予防注射等にも取り組んだりいろいろとやっています。

救急救命講習会を計画的に実施して、基本的に3年に一回ぐらいはAEDの取り扱いの講習を受けられるような計画も立てながら実施しているところです。

簡単ですが以上です。

【遠藤議長】 ありがとうございます。

教育に関する6つの項目に分かれたテーマの内容で、24年度の計画の実施状況につきご報告がございました。

それでは、委員の先生方から6項目に関しましてそれぞれコメントあるいはご質問をいただきたいと存じます。

最初にご指名させていただいた委員の先生方にそれぞれコメントをいただいて、もし時間に余裕がありましたら全体で意見をいただきたいと存じます。

「入学者の確保」のことにつきまして高田様からお願いしたいと存じます。よろしくお願いします。

【高田委員】 先ほども米田校長先生からありました、本郷キャンパスが併願になった関係で非常に救われている生徒がいると、何人かの中学校長から聞いています。高専に行きたい生徒が夢を実現できるという視点で、この併願については大変ありがたいという話をいただいています。

中学校へ来ていただいて説明会を開いていただいているわけですが、学校によっては保護者と一緒に聞くという形で説明会をやっている学校がありまして、保護者から高専のイメージが具体的に伝わってきて非常によかったということで、子どもが高専を希望する際のかなり強い後押しになっているという話も聞いています。

最後に1点、これはあえて何か改善や問題点はないか各地区の会長や副会長等に聞きました。あえて言うなれば、入学手続、確定後の手続が非常に煩雑で、学校でやる部分を少しでも手続の簡素化、あわせて保護者の責任においての出願など、そうしたことが可能なかどうか、また検討していただければありがたいということでした。これも数校から上がっています。

以上です。

【遠藤議長】 今の手続のことにに関して学校側でコメントはありますか。

【米田校長】 高校に入学するときの手続に比べて高専の入学手続は複雑だということですか。

【高田委員】 はい。提出の書類もかなり多くあります。ごく限られた生徒のみが高専を希望するわけです。大半は公立高校を希望するという、そこに大きな違いがあろうかなと思うんですね。そうした点で少しご検討いただければありがたいということです。

【米田校長】 簡素化できるものなら検討したいと思います。

【遠藤議長】 富山高専単独だけのものではない部分もあるのだと思いますので、機構としてのお考えもあるのだらうと思いますが、ご検討下さい。

引き続きまして、「教育課程の編制等」について木下様からお願いします。

【木下委員】 1つお聞きしたかったのがインターンシップでありまして、私ども県立高校におきましても、インターンシップについては、専門学科は95%以上、普通科においても今6割近くになってまいりまして、全体の平均で、今年あたりは70%ぐらいに何とか3年の間に経験しているという状態です。

ご存じのように、県内の中学生は14歳の挑戦で全員受けていますので、中学、高校でインターンシップというのは大変いろんな成果があって、私どもも県内のさまざまな企業の方々に支えられてありがたいなと思っているところですが、そこらあたりの現状などについてお教えいただきたい。

もう1つは、教育成果、全体の成果指標として最近注目されています、いわゆる卒業時の無職、無業者の数ですね。富山県の場合は、高等学校卒業時の無職、無業者が1.1%ということで、全国平均5.6%から見ると大変少ない、全国一低い状態をこれで10年以上続けているわけですが、大学になるとたしか10%近くになる。富山県内の短大が全国で見ると一番低くて、約5%だったのではないかなと思っています。

その点、ちょうど6%ほど、未定も含めてなので全てが無職、無業者ではないと思っていますが、この数も大変低い数字ではないかなと思っています。ここらあたり、先ほどのいろんな進路を目指される生徒へのご苦勞もあるかと思っていますし、大変少ない数字におさめていただいて、これについてもありがたいなと思っているのですが、ここらあたりのご苦勞などもまたお教えいただければありがたいと思っています。

【成瀬副校長】 まずインターンシップの件ですけれども、基本的には4年次で大体2週

間から3週間の、メインは企業へのインターンシップですが、中には大学等で、例えば長岡技科大へのインターンシップもごございます。

これは基本的に必須ではありませんで、インターンシップをやると単位がもらえるという形で進めているということで、例えば中学校でやられている14歳の挑戦といった全員という形ではごいません。ただ、割合的にはほとんどの学生がインターンシップに行っていますか。

【遠藤教務主事】 国際ビジネス学科だけがその時期にちょうど短期海外研修があるので、それ以外はほぼ100%です。

【成瀬副校長】 ほぼ全員インターンシップに行っています。

基本的には県内の企業へのインターンシップが多いと思っていますが、今の国際あたりは県外等々のホテルなどへのインターンシップもあります。

海外となりますと、今は専攻科の学生がメインになりまして、基本的には1カ月間、海外の企業、大学等で研修をする。これも単位制という形で行っています。おかげさまで、県内の場合は企業のご協力を得られていますので、非常に高い割合でインターンシップが行えるということで感謝しているところです。

卒業時の就職等ですが、やはり富山県内は基本的にものづくり系の企業が非常に多いので、県内への就職率が非常に高うございます。割合的には全体で70%ぐらいですか。

【米田校長】 Uターンも入れてですね。

【成瀬副校長】 結構な割合の、多分全国でもすごく高いと思いますが、県内企業の就職率が非常に高くなっています。

どの学校でもやっていると思いますけれども、一応企業を回らせていただいて、いろいろコンタクトをとってお願いに上がっているところも学科としてはありますので、基本的には県内の企業様の受け入れが非常にいいことが1つあります。

文系で国際流通学科はそういう面で、県内の事務系の企業、公務員等々が順調に受け入れられているということで、無職といえますか就職できない率が非常に低いところかと思えます。

以上です。

【遠藤議長】 ありがとうございます。

続きまして、石塚様から「優れた教員の確保」のところについてよろしくお願ひします。

【石塚委員】 前日も申したかもしれませんが、博士や修士の数値目標を掲げられ

たことは大変評価していきまして、なおかつ、博士はクリアして修士も90に近いところまで行っていることは素晴らしいと思います。

私が今日聞いていてこれはすごいなと思ったのは、人事交流として教員を1名2年間派遣したことです。

【米田校長】 はい、技科大との人事交流を行いました。

【石塚委員】 これは大学を受け持っている我々からすると、なかなか難しい制度なのですけれども、つまり講義など、その2年間というのはかわりの人が誰かやれるという制度があるわけですか。

【米田校長】 暫定的に2年を限度に教員枠を使わせてもらう。しかし、では2年任期で人が採用できますかという話になりますので、大抵の場合は、そういう制度はあるけれども、非常勤講師でその2年分対応する。

【石塚委員】 分かりました。

【米田校長】 同じ学科の先生方がサポートしてくれることもありますけれども、基本的には非常勤講師がその2年間の穴を埋めている。

【石塚委員】 分かりました。

それから、他部門の経験者を90%維持するという点です。他の勤務、海外での勤務経験者を90%を維持するというのは、今の教員の経験のない人をあえて経験するようにするのか、採用するときには他の機関の経験がある人を採用するようにするのか、どのようにされていますか。

【米田校長】 両方だと思います。今いる教員にほかの職場を経験してきなさいよということであれば、内地研修も在外研修もそれに相当する。

【石塚委員】 内地研修というのは、人事交流とは違って短期間の制度ですね。

【米田校長】 1年ぐらいをめでに研修しに行くわけです。

【石塚委員】 すばらしいと思います。

【米田校長】 人事交流はそこへ行く教員とそこから来る教員がいます。

【石塚委員】 来る人もいるわけですね。

【米田校長】 基本的に高専間では行く人と来る人がいます。

【石塚委員】 行く人と来る人は必ずしも講義は同じではないですね。

【米田校長】 うまくマッチングをとっています。

【石塚委員】 よく分かりました。ありがとうございました。

【米田校長】 技科大へ行く場合には行く人がいる。では、技科大から来ますかというのと、それは難しい。

【石塚委員】 それは難しいですね。向こうは大学ですから。

【米田校長】 そうですね。

【石塚委員】 分かりました。

【遠藤議長】 ありがとうございます。

続きまして、「教育の質の向上及び改善のためのシステム」について、犬島様、コメントをお願いします。

【犬島委員】 何か学校の教室で先生から当てられているような感じで、しかもたくさんあるテーマの中からこの部分についてお答え下さいと言われると、ちょっと私としては、門外漢ではお答えしにくくて大変困るんですね。別の面でもよろしいですか。

【遠藤議長】 結構です。

【犬島委員】 全体を通してお聞きしていて、まず入学の募集のところでもちょっと気になる点があったので。

実は私が育ったのは本郷キャンパスのごく近くなのです。アクセスが非常に悪いのです。射水キャンパスも恐らくそうだと思います。どちらもアクセスが非常に悪いんですよ。そういうデメリットをスクールバスか何かで補完しておられるのかどうか。私、そこら辺はよく承知していませんので、だけど、パンフレットを見る限りはあまりそういうことは、国立の場合にそういうことが許されるのかどうか分かりませんので、ちょっとその点が1つ気になりました。

それから、試験のところでも統一試験と書いてあるのですが、全国の高専の統一試験というものはあるのですか。

【米田校長】 あそこに統一試験と書いたのは、2つのキャンパスで、どちらも併願制。

【犬島委員】 そういう意味ですか。全国の高専が一律にやるということではないんですね。

【米田校長】 それはそれで、いわゆる学力入試は同じ問題を全国の高専で使います。

【犬島委員】 入学試験のときは統一問題ではないんですね。

【米田校長】 同じ問題を全国51高専が学力試験で使います。

【犬島委員】 入学のときに。

【米田校長】 入学試験。そういう意味では、全国版の統一という言葉も使います。

【犬島委員】 ちょっとそこら辺が分かりませんので。

【米田校長】 ちょっと紛らわしいですね。

【犬島委員】 それと、カリキュラムというのは、私がちょっと気になったのは、学校でお作りになるんですよね。

【米田校長】 はい。

【犬島委員】 恐らく実業界のニーズとかなりずれてくる部分が大きいと思うのです。だけど、恐らく従来の学校ではその変更というのは大変難しい。講座制などいろいろな仕組みがありますので、この辺、実業界のニーズをフィードバックされることを少しお考えになったらどうかというのがちょっと気になりました。

それから、シニアフェローというお話がございました。これはすごくいい制度だと思います。これはぜひ拡充された方がいいような気がします。

私、学生時代、子どものころを振り返って思い出すのですけれども、中学校から高専にお入りになるんですよね。補充教科として数学、物理と書いてあるんです。分かるか分からなくなるのは、小学校からも分かったり分からなくなったりするのですけれども、物理や数学というのは、本当に分からなくなるのはこの辺なんです。これはなかなかやっかいで、より詳細に実施状況が分かるとよい。その後に精神的なヘルスケアなどがありますよね。書かれるのはこのとおりなのでしょうけれども、非常に難しいことをやっておられるなという感じがします。

先生のご下命とは全然違ったことを申し上げましたけれども、全体をお聞きしてそんな感想を持ちました。

【遠藤議長】 ありがとうございます。

犬島様がおっしゃったのは、恐らくそれぞれの委員の方が思っていらっしゃることを代表して言っていたかと思うと思います。ありがとうございます。

お答えが難しいところがあったと思うのですが、バスなどのアクセスに関しては、現状だけちょっとご説明いただけますでしょうか。

【米田校長】 全国51高専、いずれもアクセスは悪いと思います。まだ富山高専はそこにあっていい方かなと思います。本郷キャンパスには路線バスが校内まで入ってきますし、1時間、せいぜい2時間に1本は走っていますが、射水の方は1日に2本ぐらい近くを通る程度です。ただし、射水は通学バスを使っています。それによってぐっとアクセスがよくなりまして、志願者が結構いてくれるのは通学バスが果たす役割も大きいと思います。

そのかわり、そのバスの仕組みが機能するためには、学生が使ってくれないといけません。

親が送り迎えをしてしまうと、通学バスはだんだん利用者が減ると採算がとれなくなるという問題を抱えています。これがアクセスの悪さを十分補っていると考えます。

【遠藤議長】 通学バスは学校の専用バスですか。

【米田校長】 はい。

【遠藤議長】 無料でしょうか。

【米田校長】 有料です。JRの高岡、小杉、富山の駅との間を。

【遠藤教務主事】 朝12便、晩7便運行しています。

【遠藤議長】 いろいろ工夫をされているということだと思います。

それでは、時間も押していますので、続きまして「学生支援・生活支援等」のところで松田様、お願いします。

【松田委員】 先ほど発達障害の方もいらっしゃるということで、大変ご苦労なさっていると思っておりますが、その中でも、学生に対して「何でも相談室」ミニイベントを6月に開催されたということが載っています。それによってその存在を広く学生が分かるようになったということですが、実際、学生の悩みというのはどういったところに集中していて、どれくらいの学生の数が相談に来られるものか、運営諮問会議という機会に教えていただけたらいいのではないかなと。

いろんな悩みがあるかと思っておりますけれども、企業界のこと、経済界のこと、自分の目標としている大学のこと、そういったことなどもこの会議で説明していただけたらありがたいなと思っております。

先ほどもちょっと話がありましたが、シニアフェローが33人いらっしゃるということで、学校側としては年に2回ぐらい経済界の人の話を聞いて学生の疑問なりにお答えになっておられるのかもしれませんが、2人ぐらいの方からお聞きするのではなくて、やはりシニアフェローが少なくとも5人から10人ぐらい集まっていろんな回答をいただくのがいいのではないかなと。1人か2人ぐらいから話を聞いても、ある学生にはそれは非常に的確かもしれませんが、的確ではない方も相当いらっしゃるということで、複数の方をお招きして、その中から座談会、懇談会を開いて生徒の悩みを聞いてあげることが必要かなと感じました。

【遠藤議長】 ありがとうございます。

確かに、ヘルスケアといいますかメンタルヘルスケアの部分の実数、大体どのような現状なのかという数値ですね。今日は時間の関係もあり、是非次の機会等にお示しいただければと思います。

【米田校長】 学生相談室でそのようなデータを持っています。

【遠藤議長】 それでは次に、松坂様から「教育環境の整備・活用」につきましてお願いしたいと思います。

【松坂委員】 私の部門ですけれども、学校の設備や施設の効率的な運用ということがまず第1にあって、その次に整備ということがあります。この中で、留学生のための寮の改善ということを最初に掲げておられまして、生活習慣や宗教の違いがあって、向こうから来る人に、日本に来るのだから日本のことと言わないで優しくしてあげていることを非常にうれしく感じています。

身体不自由の方のためにドアの自由化などもやっておられますし、女子学生のために化粧台を設けたことも、優しい学校のあり方みたいなのところがあって、非常に感心しています。

危険な箇所、耐震については、早急にやらなければならないということで実施されたことも評価していいのではないかと私は思います。

施設のメンテのことですけれども、この中で目立つのは、節水型のトイレを入れたとか、人感センサーでどう開け閉めをしたとか、便器をそういうものにしたとかということで細かいこともやっておられるのですけれども、実は私がこれにかかわるようになってから約2年か3年になると思うのですけれども、ついにキャンパスエコアクション21を両キャンパスとしてとられたことは、多分高専の中では日本で最初だと思われるので、大変光栄だしすばらしいことだと思っています。

次に健康の管理と安全のことですけれども、また私、すぐ優しさに何でも目が行くのですけれども、前は健康管理室みたいなのところで、血圧を測るのでも何でも自分でどうぞみたいなのところがあったのですけれども、ここへ来て看護師が直接会ってお話をするというのは、その人の持っている困ったことなどもひょっとしたらそんな機会に出てくるということで、非常にいい方向に変えられたなと私は感じています。

ただ、このところでちょっと問題にしたいのは、安全のために避難訓練や防火訓練をやっておられますけれども、本郷キャンパスでは天候不良のために両方とも中止したと書かれていまして、これは中止してその後やらなかったとすると大変なことだと思います。

なぜ私がそういうことを申し上げるかといいますと、私が射水、昔の放生津にいるときに、実は学校の中で火災が起きました。使っていない武道場が火災を起こしたときに、朝5時半ぐらいのことだったのですけれども、寮生150人と1人の当直教官だけで消火して、市の消防が来たときにはほぼ鎮火状態にあった。訓練すればそこまでできるということがあったものですから、やっていないというのはどういうことなのか非常に心配になって、これを質問とさせていただきたいと思います。

【遠藤議長】 最後のご質問にお答え下さい。

【米田校長】 中止させていただいて、ではやったのか、本当に中止、今年度は……

【松坂委員】 全くやらなかったのか。射水では両方ともきちんとやっておられますよね。こちらの本郷の方ではいかがだったのかということです。天気が悪ければやめていいというものではないと思うんですよ。

【米田校長】 本当におっしゃるとおりかと思えます。貴重なお叱りとして。

【遠藤議長】 うちもそうなのですけれども、大学には甘さもあるようです。

私、病院長をつとめたことがあります。病院に関しては全員がかりで、模擬患者を作って移すのを毎年1回は必ずやっています。それはもちろん、天候が悪い場合には天候が悪いなりに考えて準備しておいて行います。安全管理は重要なことでそれは松坂さんのご指摘のとおりだと思えます。

【松坂委員】 すみません。褒めていけばいいのでしょうかけれども。

【米田校長】 いえいえ、たくさん褒めていただきまして、最後に厳しいご意見をいただくことはありがたいことです。

【遠藤議長】 松坂様から貴重なご意見をいただきました。

さらにご意見があると思えますが、ちょっと時間が押してまいりました。次の項目へ移らせて下さい。研究の項目へ入らせていただきたいと思います。存じます。

丁子先生、「研究に関する事項」についてお願いします。

【丁子副校長】 研究に関する事項で簡潔に説明させていただきます。

①の研究活動ですけれども、学校の研究室として一番大きいものが科研費ですけれども、この開拓をなるべく多くしようということで、いろんな施策をやっているところです。

特に長岡技科大の先生をお招きして科研費のとり方の講習をいただいたり、そういうことでいろいろと採択率の向上策を図っています。

教員一人一人が個別に研究しているとなかなか力が発揮できないものですから、チーム

で研究しましょうということで、できるだけ連携を組むような取組みもやっています。

②ですけれども、一番大きな取組みは技術振興会の会員企業と共同研究をさせていただくことで、特に地域イノベーションセンターが中心となり、グリーンイノベーション研究会というものを開催しまして、そこでいろんな情報交換をしながら具体的な共同研究に発展させていくということで研究に取り組んでいるところです。

また、本校の中ばかりではなくて、全国51高専ありますけれども、その中の東海北陸地区で連携をとりまして、地域連携関係の協議をテクノセンター長等会議というところで開催しています。その中で各高専のイチオシ技術を地域に発信するといった事業を幾つかやっています。

地域の自治体との連携も深めようということで、既に射水市と黒部市との包括協定を結ばせていただいていますけれども、今度の2月25日に富山市とも締結という運びになっています。

高専と非常に連携の深い長岡、豊橋の両技科大との連携も深めながら研究活動をやっているということです。

簡潔ですけれども、以上です。

【遠藤議長】 ありがとうございます。

研究に関して浜屋様からコメントはありますか。

【浜屋委員（代理）】 昨年会議に出ささせていただいており、継続してやっただいていると認識しています。各市町村との連携で、あるいは産学官交流会への参加等でこれからも進めていっていただければと思います。

ちょっと話は外れますけれども、私、去年の11月、企業研究会というのに出ささせていただきましたまして、高専の生徒との出会いがあったわけですが、その中で、射水キャンパスの海外インターンシップの研修の発表会も聞かせていただきまして、非常に有意義な生徒の生活の一端を見たような感じがしました。また、高専の生徒は礼儀正しくしっかり聞いていただきましたので、ぜひまた来年もこういう機会があれば出ささせていただきたいなというのと、インターンシップの開催の時期ですが、休みは8月、9月ですか。うちは8月のお盆明けにやっているのですが、非常に暑い中でやっただいていっているものですから、9月になって実施するというのは可能なのでしょうか。そこだけちょっと聞きたくて参りました。

8月のお盆、残暑に空調もあまりよくないところで仕事をしていただくのは非常に苛酷

なような感じがして、9月になってから、もしも学校の研修や課外授業が始まるというのなら無理でしょうけれども、そういうのは8月に限定されてやっておられるのでしょうか。

【丁子副校長】 過去は7月下旬から8月いっぱいの夏休みでしたので、それで8月、お盆過ぎぐらいが学生の都合がよろしいというような、都合上やっていたのですけれども、本年度から8月、9月になっていますので、9月の方がもしご都合がよければ可能だと思います。

【遠藤議長】 では、「社会との連携、国際交流等に関する事項」につきましてご説明をお願いします。

【成瀬副校長】 まず①②ですが、地域人材開発本部が中心になりまして、まずは企業向けの例えばWebシーズ集を充実させる。まだできていませんが、今後、特に企業の方は海外進出ということがありますので、英語版のパンフレットも検討したいと思っています。

小中学生向けということで、特に理科教育を中心として出前授業を幾つもさせていただいていますが、結構申し込みの数も多くいただいています。小学校、中学校に出かけていって授業を積極的にやることも今後また進めていきたいと思っています。

⑤、先ほど話題になっていましたが、シニアフェロー、企業等の方々との教育研究会を立ち上げながら、COOP教育を進めているということです。

次、めくっていただきまして、⑥国際シンポジウム等々ですが、海外インターンシップ等がありまして、専攻科でいきますと英国の北アイルランド、ハワイのカウアイカレッジ、マレーシアの立山オートマシン等々に行かせていただいています。そういうところをきちんとプログラムを作っていきたいと思っています。

今、機構が海外と幾つも提携を結んでいます。シンガポール、香港がありますが、香港もそこに基づいて留学生の受け入れも積極的に行っています。

機構の一つのプログラムとして今年度実施したのがアジアの高専体験プログラムで、アジアの国々から9カ国、合計50名弱の学生と先生を招聘しまして高専を体験してもらうものです。簡単に言えば、私費留学生という形で高専にどんどん来て下さいといったアピールのために実施しました。

海外留学制度の充実のために、やはり安全・安心ということでハンドブックを作ることもあわせてやっています。

以上です。

【遠藤議長】 ありがとうございます。

この点に関して正橋さんはいかがでしょう。

【正橋委員】 いつもお世話になっておましてありがとうございます。

まず、企業との共同ということでこのような企画をされている部分があるのですが、目的がどの辺にあるのかが少し分かりにくいのかなと思います。要は、高専として社会、特に企業に対してどのような教育というか取組みができるのかということも恐らくされていると思うのですが、どの辺が最終的な目的なのかがちょっと分かりにくいのかなと思っていて、そういうところを具体的に詰めていただけると我々も積極的に参加しやすいのかなと思っています。

国際関係に関しては、今年度に関して言うと、当社では留学生の方もインターンシップで受け入れさせていただきまして、海外でも対応させていただきました。これは我々にとっても非常にいい経験になったと思っています。

あわせて、せっかく留学生の方がいらっしゃって、それが次また専攻科に行かれたり他校の大学に行かれたりする可能性も大いにあると思っています、ある種、我々はせっかく富山でそういう方々と知り合いになれたので、うまくその辺を、フォローできるような情報や、そういったものがうまくつながっていけるとうれしいなと考えていますし、さらにそういう場をたくさんまた持っていきたいなと考えていますので、うまく運営していきたいなと考えています。

以上です。

【遠藤議長】 ありがとうございます。

次の項目に行かせていただきます。「管理運営に関する事項」及び「その他」について、米田先生から説明をお願いしたいと思います。

【米田校長】 時間も大分押しているようですので、簡単に説明します。

7/8ページ目、「4 管理運営に関する事項」に関してです。

いろいろ書いてありますが、基本的に本校の運営は、意思決定の最高機関として運営審議会を月1回定期的に開催しています。基本的に戦略を立てて、どのようなことを重点的にやろうかというのは、戦略企画会議と言いまして、これも月1回定期的に開催しています。

それと教員会議の話も出ました。先生方に直接学校の方針について、あるいは決まったことについて伝える会を教員会議という形で持っています。

今の時勢、財務のことはなかなか難しいわけですが、財務室というものを設けていまし

て、少ない予算を戦略的、計画的に配分しています。

ほかに校長裁量経費も少しありまして、真に必要なところをよく見た上で申請者に対して配分する。ただし、これも途中で、例えば公務員の給与削減に準じて独法職員もということになりますと、そのしわ寄せが校長裁量経費に出てきたりしています。

次の枠ですけれども、今開いていただいている運営諮問会議です。外部有識者の皆様から年に2回をめどに会議を開いて、いろいろご意見、またアドバイスをいただくことにしています。

次の枠の業務改善、これはいろんな意味で業務改善をしていかないと組織がなかなかたないということで、機構全体で業務的なこと、学生生活的なこと、教員の福利厚生に関する事など業務改善について行って、各高専はその線に沿って業務改善します。そのようなことに機構全体が取り組んでいます。

最後の8/8ページになります。いろいろな研修があります。職員の研修、教員の研修には積極的に参加するようにしている。参加実績が多数書いてあります。

その枠を1つ飛ばしまして、「5 その他」があります。施設・設備に関することが書いてありますけれども、設備整備マスタープランを持っています。ただ、今、24年度補正がまだ国会を通過していませんけれども、大変な量の設備をこの際調達するようと言われて、短い期間で今まで買ったこともないような大きな買い物を多数すると。現場は少し戸惑っていますが、そのためにも、マスタープランをそれまで持っていて、それが今回補正で前倒しになっているということです。

その下の枠2つですけれども、Ⅱの業務運営の効率化に関する事とⅢの予算に関する事についてですが、業務運営の効率化に関しては、効率化係数が中期計画期間中かかっています。一般管理費は3%の前年比節約、その他については1%の節約、これがかかっていますので、それをクリアするためにいろいろ工夫をしています。先ほどのシャトルバスの運行の事なども書いてあります。

それから、授業時間をばらばらにしないで90分に統一することもやっています。

最後、予算ですけれども、運営費交付金、なかなか大変です。減る一方ですので、外部資金を獲得するようなことを推奨しています。ただ、外部資金を獲得した場合には、その先生に対して間接経費を少し配分する等、インセンティブを与えるようにしています。

先ほど来出ています技術振興会会員企業との共同研究に参加した場合にはその資金の補助を行う。シニアフェローの話も出ていて、いい制度だというお褒めの言葉もいただい

ていますが、シニアフェローさんたちにも大いにご協力、ご活躍いただいて、共同教育研究会としてそれらをやっていきたいと考えています。

シニアフェローの教育面、研修面での役割、狙いももう少し整理していきたいと考えています。

以上です。

【遠藤議長】 ありがとうございます。

このところは私に発言の責任があるので、簡単に質問だけさせていただきますが、システムとしてはいろいろ苦勞されてやっつけいらっしやって、国からの運営交付金が年々1%何某で減ってきている現状に合わせてご苦勞されていることは大変だと思います。でも、本当にいろんな工夫で成果を上げられていることに敬意を表します。

1つ、管理運営というよりも90分授業ですが、ぜひこれはご検討いただきたいところです。大学も90分授業なのですけれども、私個人的には長過ぎると思っています。90分間ならばどのように使って90分間にするのか。教員のする講義は、緊張して学生が聞けるのはせいぜい60分ではないかと思います。残りの30分はディスカッションに使うとか意見交換に使うとかいろんな工夫が必要かなと思っていますのですが、ぜひこの辺をご検討いただきたいというのが拝見しての意見です。

【米田校長】 120分が2時間だという主張もあるところ、それを90分を2時間相当ということで詰めたのは相当なものだと思うのですが、それでも……。

【遠藤議長】 1単位ですね。120分継続して、実技だったら別ですけれども、学生が60分以上の講義を集中して聞けるかという無理だと思っています。

【米田校長】 検討させていただきたいと思います。そういう観点で90分という数字を…
…

(4) その他

【遠藤議長】 終了予定の時間に来ているのですけれども、せつかくの機会ですので、全体を通してご質問やご意見があれば皆様からお願いしたいと存じます。

(発言する者なし)

【遠藤議長】 私、議長としてのまとめの話をさせて下さい。

高専ができて50年近いと思います。私、中学校を卒業するとき、ちょうど高専の1回目か2回目ぐらいの入学試験があったと思います。そこから50年たって、日本の教育といい

ますか高等教育に流れが、高校全入になってきて、それで大学の進学率がどんどん高まってきて、逆に少子化があり、その中でさまざまな入学制度の変更があり、大きな流れの教育のシステムの変換がありました。教育というものに関して非常に危惧の部分がある中で、高専は苦しい時期もあったと思いますけれども、今は光り輝いて、本当に新しい時代を迎えつつある組織、教育体系だと思います。

これに対しては、先ほど犬島様等々皆様からありましたけれども、高等教育機関は、社会のニーズも含め、学生のニーズ、そして現場で働く教職員のニーズに対して応えなければいけないと思っています。

その中で、企業あるいは社会ニーズに今求められているものに非常に合致した共通点が作られてきているのが高専の一つの形になっていると思います。それゆえに、高専に対しての評価は高いし、期待感はずごく高まっているのだと思います。

現在の日本の大学では果たし得ていない役割が高専に求められています。特に現場で求められている人材を輩出されていると考えています。

ただその一方で、今のグローバル化する世界に関し、教育的には高専はかなり対応されていると思うのですけれども、もう1つのイノベーションという形に関しては、もう一步、大学側あるいは企業側との連携が必要になってくるのだろうなと思います。

その中で、ちょっと話が飛んでしまいますけれども、教育という点において、犬島様から先ほど統一試験という質問がありました。教育のあり方の中で、高専という全国組織機構で一定のカリキュラム、少なくとも基本的なベースのカリキュラムを持っていらして、その中で授業科目を選択しながら組んでいच्छるなかで、学生に対する教育評価ということで、全国的な統一試験というのは深い視点です。富山だけでやっていच्छるのではなくて、3年目とか5年目でどういう人材を卒業させ得たのか、決して卒業試験ではなくて、達成度を評価するような統一試験をやられてみることをぜひご検討いただいてもいいのではないかなと思いました。

高専はいろんな形で機能的に動かれる組織だと思っていますので、ぜひ全体でご検討いただきたいなと思います。

もう1点としては、地域とのつながりについてで、入学者は県内の方が多いとのことでしたね。

【米田校長】 はい。県内出身が95%ぐらいだと思います。

【遠藤議長】 県内に人が残ってくれることは社会ニーズで求められる目的との合致点で

あり、数値の評価は大事ななと思っています。

同時に、これは大学にとっても同じことです。工学系・技術系のさまざまなフィールドで人材を育成する役割を担っている私ども大学と高専、3つの工学系教育機関があるわけですので、今回、この3つがぜひ協力し合いながら、それぞれの特徴を生かしながら活動を強化していくことになりました。4月1日から富山県に間に入っただき、またこれから企業の方々にもお力添えをいただきたいと思うのですが、富山県の大学コンソーシアムという一つの形を作っていくことになりました。この点でも協力し合いながらやってまいりたいなと思います。

留学生の対応も重要な課題です。

これ、1つ抜けたのですけれども、知財ネットワークシステムというのは東海地区の高専での協議会ですか。どのくらい機能されているのか教えていただきたい。特許、知財関係の対応の管理は非常に重要視されていますが、大学においてもなかなかうまくいっていない面があります。

【米田校長】 先ほどブロック分けの話がちょっと出ましたが、51高専を8つのブロックに分けて高専機構は運営していて、本校は東海北陸ブロックに入っています。その中で、統合した少し大きめの高専ということもあって拠点校的な役割をするように言われていまして、期待されていまして、知財関係も取りまとめ役をやっています。この東海北陸地区高専の知財をまとめて、それを周知したり会議を開いたりということは拠点校として現在やっています。

【遠藤議長】 今まさに社会的ニーズとしては非常に求められている点だと思います。

最終的にはいろんなことがございますが、高専はすばらしい発展を今遂げていて、社会ニーズに非常にマッチングして、具体的な数値で申し上げますと、25年度の予算で教育研究基盤経費というのがございますが、国立大学全体82校で今予算のベースに分けられたものが、325億というお金が今案に乗ってきています。高専は51校ですが285億配分されています。高専への大きな期待が見えるなど切実に思います。

最後に、やはり教職員の方が気持ちよく働かなければいけないということがあると思います。特に教員の方々には、高専の教育をいかにするかという特色はあろうかと思っておりますけれども、ご自身の研究力への思いも強いと思います。

そういう意味では、サバティカル制度と言えるのかどうか分かりませんが、長岡技大への派遣も非常に大事なことだと思います。教育の方にシフトせざるを得ないことはあると思

うのですが、それぞれ頑張ってください研究もすすめていただきたいと思います。

我々高等教育機関にとって、富山県に立脚して地域をいかに活性化するかは大きな課題です。学生が富山県の中で企業の方々と連携しながらいい形で定着して、そこでパワーを発揮していただける人材を育成するために、教員の方々のパワーも発揮していただかねばなりません。

富山高等専門学校益々のご発展を期待いたします。

これで終了という形で、議事のところは閉会させていただきます。よろしく申し上げます。

4. 閉会挨拶

【林事務部長】 以上をもちまして、平成24年度第2回富山高等専門学校運営諮問会議を終了させていただきたいと思っております。

終了に当たりまして、米田校長からご挨拶申し上げます。

【米田校長】 いつも大変熱心にご議論いただきまして、本当にありがとうございます。

今日も貴重な、あるいは忌憚のないお叱りの言葉も含めましてご意見を賜りまして、本当にありがとうございました。

遠藤先生には議長として取りまとめていただいて、ありがとうございます。

確かに、高専は今50年たちまして、若干の追い風が吹いているような気がします。285億円の紹介もありました。どうやって使うか、各高専では今頭を悩ませているところですが、この追い風は追い風としてこれからのために使っていきたいと。そのときに、今日いただいたご意見、アドバイス等を大いに参考にさせていただいて、高専は頑張っていきたいと思っております。

先生方におかれては、今後ともご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願いしたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

〔閉会 午後0時10分〕